



如本す何方へは持事
 如様 此吾師 覺し
 とすも速はるゆゑに
 如や 信の如

漢語本和故事卷之四目錄

- 一 蟹八甲ニ似テ穴掘
- 二 鑰ノ穴カラ天ヲノゾク
- 三 金言耳ニ逆フ
- 四 御鬚ノ塵トル
- 五 御前追從
- 六 燃火ニ薪
- 七 薪ヲ抱テ火ヲ救
- 八 思内ニ有バ外ニ形
- 九 身ニアルウレシサ
- 十 遠目バカリノ筈木
- 十一 歌モ舞モ法ノ聲
- 十二 日ニ三度身ヲ省

大甲の目録

十三 知テ不知

十四 不知ヲ不知トセヨ

十五 見ザル聞ザル

十六 藪醫者

十七 知音

十八 心友面友ノ事

十九 人喰馬ニモ合口

二十 笑ノ中ノ劔

二十一 人ニ飴ヲ舐ス

二十二 後言イハレテ嚏

二十三 人ニ一癖

二十四 玉ニ瑕

二十五 玉不琢無光

二十六 譏嫌并安堵

二十七 亭主北ノ方冠者

二十八 替古披露沙汰

二十九 一物并云云

三十 旁若無人并萬葉日本紀等ノ讀

三十一 馬鹿ノ事

三十二 無恙

三十三 穴賢

三十四 天知地知

三十五 十分ハ覆ル

三十六 人間万事塞翁ガ馬

三十七 千日ノ勤學ヨリ一日ノ名匠

三十八 梅檀ハ二葉ヨリ香

三十九 若木ノ下テ笠ヲ又ケ

四十 逃テ通セ酒ニ酔ノキ トホ サケ ヲヒ 四十一 上戸下戸ジツゴ ゲ

四十二 猪武者イノシム 四十三 大福長者オホフクチカウ

四十四 長者富ニ不厭チカウ トミニ アハ

四十五 狂人走ハ不狂人モ走ルキヤウジン ハシレバ フキヤウジン モハシ

四十六 人至テ惠ケレバ無友ヒトイタク カレバ ナレバ ナシ

四十七 綸言如汗リンゲン ジョウニ アサ 四十八 命ハ義ニ縁テ輕シイノチ ヲトニ ヌリテ カサシ

四十九 辭多者ハ品少コトバ オホキトシタ マシ 五十 身サへ心ニ任セズミミサヘ コロニ マカ

五十一 重荷ニ小付オモクニ コヅケ 五十二 一樹ノ景一河ノ流イツツキ ノカゲ イツカガ ノナガ

五十三 復新トイヘドモ冠トセズクワシニ アタラシク イヘドモ カシラ トセズ

五十四 日暮道遠ヒトクシチミチトシ 五十五 世短意多ヨミチカコロオホキ

五十六 雞口牛後ニトリノクチウノノチ 五十七 怨ハ恩テ報スルウラナハ オンニ オウ

五十八 騏驎モ老レバ馭馬ニ衰ルキリン モオヒナバ ヲシバニ オホ

五十九 青ハ藍ヨリ出テ藍ヨリ靑アヲキ ハアイヨリイデテ アイヨリアヲキ

六十 婦ガ姑ニ為ハ程ナシメノ ヨメニ ナリニ オホ

六十一 比翼連理ノ契ヒヨクレンリノキ 六十二 色イロ

六十三 麻姑ノ手アサノテ 六十四 玄翁ゲンオウ

大和四目録

空五 苞丁

空六 漢書野人撰 空七 漢書

空八 漢書野人撰 空九 漢書

空十 漢書野人撰 空十一 漢書

空十二 漢書野人撰 空十三 漢書

空十四 漢書野人撰 空十五 漢書

空十六 漢書野人撰 空十七 漢書

漢語大和故事卷之四目録

漢語大和故事卷之四

一 蟹ハ甲ニ似セテ穴掘トハ 人ノ鳥コト願

同諫ナルコト。事文類聚後集日有客相從

各言所志或願爲揚州刺史或願多貨財或

願騎鶴上揚州欲兼

三 者 矣 三 者 矣 三 者 矣

二 鑰ノ穴カラ天ヲノゾク 鑰ニハ穴ナシ

ベシ。コノ諺モヲノレガ小智短オヲ以テ

妄ニ大道ヲ窺ヒ已究リトスル諭ナリ。説苑

日以管窺天以針刺地所窺者甚大所見者

甚少トイヘリ。コレ同諺ナリ蟹ノ穴カラ

九和四

ノゾクトハア

三 金言耳二逆

カ。佛者ニ佛ノ諷ヲ金言トイフモ。樂義ナリ。又金ニ堅固利用ノ二用アリ。佛語不變ニシテ。ヨク危夫ノ煩惱ヲクダクユヘナリトサレバ。説苑正諫篇曰。孔子曰。良藥苦於口。紉於病。忠言逆於耳。紉於行。又家語云。藥酒苦口。紉於病。忠言逆於耳。紉於行。○史記漢書ニモ此語アリ。漢書ニハ紉ノ字ヲ便ノ字ニ作ル。説右ノ語トモ二本ナリ。シカレハ。金言ト云ハ。俗語ナリ。○事文類聚云。魏

四 御賢ノ塵ヲ取

俗語ナリ。○事文類聚云。魏

魏公爲相。下詔。公參知政事。掌會食。都堂。深公鬚謂起拂之。公正色曰。身爲執政。親爲宰相。拂鬚耶。謂慙。コノ語世話ニヨク吐モ。ノ。今世弊利ノ場ニ解テ御賢ノ塵ヲ拂テ録シ。

五 御前追従スル者ハ必ス後ニテ謀モノナ

リト。○莊子曰。好面譽

六 燃火ニ薪トイフ

其惡ヲ彰シムル。薪トイフ。○意ハ不善事ヲ。二日。惡火之燃。添薪望止。其。○意ハ。君。タル人。我身ノ行ハ惡。怒ニシテ。民百姓ノ。非口ヲ防トスルコトハ。燃火ニ薪ヲ添テ。

火ヲ沸ントスルガ如クナリ。コレハ世ノ語
ノ譬トハ。義異大レドモ。語辨相假レハ并
テ爰ニ
証ス

七

薪ヲ抱テ火ヲ救フトハ
人ニ交レハ其惡

ヲス。長ズトナリ。戰國策魏孫臣曰。抱
薪而救火也。薪不盡則火不止。諺由アリ

八

思内ニアレバ。色外ニ形ハルトハ
人心ニ懸テ。

ナキコトアタハズ。僅喜總憂。思等ノ七情
内ニ動ケハ。其端外ニアラハレテ。人ノ爲
ニ察セララル。モノナリ。淳于髡曰。宥於内
必形於外。コノ語相似タリ。平兼盛力。識ニ
悉レト。色ニ出ニケリ。ワガ憲ハ。モノヤ。オ
モフト人ノトフマテ。コノ歌オモフベシ

九

身ニアマール喜サ
歌ニウレシサヲ。昔ハ神

身ニモアマリスルカナ。コノ歌新撰撰集
ニ。賀ノ部ニ。讀人不知トアリ。西行ノ撰集
擲ニ。公仕。卿位ニ。進タ。本願寺蓮如。門徒ニ
ヨシ。懸タリ。コノ歌。本願寺蓮如。門徒ニ
寫。ハ。マ。フ。文。章。ノ。中。ニ。引。テ。ウ。レ。シ。サ。ヲ。
散。ハ。袖。ニ。ツ。ム。ト。ハ。雜。行。正。行。ノ。分。別。モ。
ナク。念。佛。ダ。ニ。申。セ。バ。御。生。行。ノ。分。別。モ。
懸。シ。ル。心。ナリ。コヨロハ。身ニモアマルト
ハ。正。雜。ノ。分。別。ヲ。聞。分。一。向。一。心。ニ。ナ。リ。テ。
信。定。シ。テ。報。謝。ノ。タ。メ。ニ。念。佛。申。ス。心。
大。ニ。各。別。ナリ。故。ニ。身。ノ。置。所。モ。十。ク。踊。ア
ガ。ル。ホ。ド。ニ。思。間。ヨロコビ。ハ。身。ニ。モ。ウ。レ
レ。サ。ガ。ア。マ。リ。ヌ。ル。ト。イ。ヘ。ル。心。ナリ。ト
ヘリ。諺。ノ。本。意。ト。ハ。異。テ。イ。レ。ト。モ。眞。ニ。隨。フ。イ

テ義理ヲ轉ジテ用タマフ。コノタダグヒ。先
哲多アルコトナリ。誠ニ智識ノ所爲ナリ。
不可誣者也

十 遠目バカリノ常木

原ヤフセヤニ生ハキバノアリトハミ
ヘテアハ又君カナ坂上是則ノ歌ナリ。續
歌林良材ニ顯昭ガ云。常木トハ信濃國ソ
ノ原フセヤトイフ所ニ森アリ。其類余所
ニテ見レハ庭ハク常ニ似タル木ノユタ
アルヲ。聲寄テミレバ。其木モ見ヘズトナ
ン。弗シツタヘタリ。ヨリテカクハ讀リト
イヘリ。コノ意ヲトリテ。世話ニ目ニ計ミ
テ。手ニ取レヌ事ヲ云。遠目計ノ常木ト云。

十一 歌七舞七法ノ聲

ナラス。アソビタハフレマデトコソキケ。
又法華經於便品ノ。唯有一乘ノコソキケ。
イキトシイケルモノ。悉佛射ナリト説リ。
有情非情。草木國土何モ我法トイフ心ヲ
慈園。イヅクニモ我法ナラス。法ヤアルト。
空吹風ニトヘドコタヘズ。同イヅカタモ。
ノユサズユキタツヌトモ。

十二 日二三度身ヲ省ルトハ

臣。日ニミタビ。オロカナル身ヲ。省テ。ツカ
フル遊モ。ワガ君ノタメ。コレハ論語學而
ノ。童子之。三。省。ヲ。トリテ。忠。臣。ノ。情。ヲ。諫。ス。
ル。者。也。論。語。ノ。コ。ハ。口。ハ。擬。目。三。次。省。之。唯

大和

七

以三皆其身而無一息之間也。必三皆
トハ。錯了。今ノ和歌ハ。三ノ意ニ讀ルナ
リ。三皆ノ人。説先儒ノ
説ニ備リ。ユ、ニ聞ク

三

知テ不知
ハ。曲學小樹ノ徒ナリ。知テ不知ヲ驚ス
コトヲ。知ザル者ナリ。是ヲ知バ。老子所謂
知其白守其
黒之術ナリ

四

知ザルヲ知ズトセヨ
論語曰。知ハ之爲知不
知爲不知。是知コノ
語ハ。孔子ノ子路ニ。教
タマフナリ。子路ハ
躬ヲ短テ。氣ガサ都ナレバ。知ザル事ヲモ
知タル。操ニイフホトニ。知此宣テ。子路
ノミニ不。衆ノ人ニハ。教タマフナリ

五

見ザル聞ザル
無住禪師ノ云イハザルト。
見ザル聞ザルヨリモナリ

六

敷醫者
カクベキカ。摩訶止觀七日。又野
カクベキカ。摩訶止觀七日。又野

七

知音トハ親友ヲイフナリ
琴ノ音ヲ知ト書ハ
トイフ故事ナリ。列子曰。伯牙鼓琴。鍾子
期善聽。伯牙鼓琴。志在高山。鍾子期曰。善哉
峨峨兮若泰山。志在流水。鍾子期曰。善哉
洋洋兮若江河。伯牙所念。鍾子期必得之。云
呂氏春秋云。鍾子期死。伯牙破琴。終身
不復鼓琴。以爲無足爲鼓者アリ。列子云。

志高曲山流格ニアレバトイフコ、ロラ、建
歌ノ句ニ。夕カキ山ナガル、水ハ、ソノ
マニ。琴ノ音夕チシ。人ハカヘラズ、後撰集
ニ。ミチカ夜ノ。フケユクマ、ニ。高秋ノ、
子ノ。マツカゼ。フクカトブキク。コレモ志
高。山ニアレバトイフコ、ロラ、タナリ。
絶。弦ノコ、ロラ。古今。射ニ。琴ノ音ヲ。キ、
レ。ル。人ノナキナヘニ。今。ズ。夕チイテ、カ
ラ。モ。タ。ツ。ベ。キ。マ。コ。ト。ニ。伯。牙。ト。鍾。子。期。知
音ノ。交。ナ。リ。今。ノ。俗。男。女。密。通。ノ。コ。ト、
同。氣。同。心。ノ。詭。ナ。レ
バ。義。ソ。ム。カ。ザ。ル。物
心友トハ心ノ友ナリ
心友トハ。俗ニオモ
モ。ノ。アリ。司。馬。光。曰。朋。友。當。以。誠。心。相。與。切
磋。琢。磨。不。可。心。知。其。非。而。不。告。但。外。自。相。媚。

心友トハ心ノ友ナリ
心友トハ。俗ニオモ
モ。ノ。アリ。司。馬。光。曰。朋。友。當。以。誠。心。相。與。切
磋。琢。磨。不。可。心。知。其。非。而。不。告。但。外。自。相。媚。

無道ノ惡人ハ。人喰馬ノゴトク。別ソフ者
ナキニ。又ソレヲ。好テ。交ルモ。ノ。ア。リ。ト
リ。呂氏春秋曰。人有真者。其親戚兄弟妻
無能興焉。自若而居海上。人有悅其臭者。晝
夜隨而不去。合口。是
人喰馬ニモ合口。是

人喰馬ニモ合口
人喰馬ニモ合口。是

無道ノ惡人ハ。人喰馬ノゴトク。別ソフ者
ナキニ。又ソレヲ。好テ。交ルモ。ノ。ア。リ。ト
リ。呂氏春秋曰。人有真者。其親戚兄弟妻
無能興焉。自若而居海上。人有悅其臭者。晝
夜隨而不去。合口。是
人喰馬ニモ合口。是

示

笑ノ中ノ劔ノコノ劔ハ人ノ交。解ハ懇切
ニ割ヲナサント企ツ是コヽロヨク笑
語中ニ及ヲ劔モノナリ。○春道述懐ニ言
下黯生消骨火。笑中偷鏡刺人及イヘリ。又
大學作義曰世謂林甫口有蜜腹有劔。又夫
木集ノ歌衣笠内大臣何事ヲホモヒケリ
トモシラレシナ。エミノウチニモカタナ
ヤハナキ。同集ニ公難知ニトレハ人ヲサ
ステフ。イガクリノ。エミノウチナルカタ
ナオソ
ロシ

主

人ニ拾ヲ紙スコノ俗語ハ内心ニハ人ニ
其言ヲ以テ交ノタトヘナリ。餘トハ卑ト
イハンガ爲ナリ。大學作義曰唯以其言而

險隘之トイヘリ。笑ノ
内ノ及ト同譚ナリ

字

人後ニテ我事ヲイヘハ噫トイフ

詩邶風

不寐。願言則嚏。註曰。我甚憂悼而不能寐。汝
思我心。如是我則嚏。今俗人嚏云。人進我。此
古之遺語也。○容齋隨筆曰。今人嚏。嚏不止
者。必嘆唾祝曰。有人說我。婦人尤甚矣。野客
叢書ニモ引。又嘆唾祝ノ三字ヲ嘆嚏咒ト
モ作ル。又歌ニハ出テユカシ。人ヲトメ
。ヨシモナキニトナリノカタニハナモ
又カナ。古今佛讚ノ歌ナリ。頭照ノ説ニ。嚏
莫イカニモ。ヨカラ又コトナリ。年始ニ鼻
ヒリツレバ。祝事ヲイヒテ祝ナリ。サレバ
人ノ所行。ズル初ニモ隣ノ人ノ嚏夕
ランヲ聞テモ。クセシカラシ人ハ。玄留

ベキナリトイヘリ。シカルニ今ノ俗ニハ。人ノ毀我則トイフハ。歌ノコトニハ不。人ノノナリ。然トモ。容齋ガ説ニ因ハ。不。大モ。口アルモ。如。拾芥ニ。嘔。時ノ。頌ニ。休息萬命。急々。如。律令。コレ。禁ナリ。又。瓊。碎。日。占。寶。子。日。酒。食。知。日。太。吉。辰。日。婚。合。年。賦。喜。事。酉。日。客。至。戊。日。嫉。思。亥。日。君。子。思。餘。皆。出。トイヘリ。

人ニ一癖晋書曰玉璠有馬癖和嶮有錢癖

黃魯直香癖李涉作癖癖又王福時譽兒癖

嘗好之癖ナリ。怒鎮ノ説ニ人。毎。ヒ。ト。ツ。ノ。クセハ。アルモノヲ。ワレニ

ハユルセ。シキレマノ道

玉ニキズトハ凡人大才廣智妙絶ノ技藝アリトイフトモ其行跡ニ

オコテ。少モ。關コトアレハ。是ヲ玉ニ。琢トハ。駒ナリ。故ニ。學者ハ。心中ノ玉ヲ磨テ。一。點ノ塵ナカランコトヲ欲スルナリ。禮記。聘義曰。昔者君子比德於玉焉。イヘリ。又。左。太。冲。云。玉。危。無。當。雖。室。非。彫。傷。言。無。駁。雖。麗。非。經。矣。

玉不琢無光學記曰玉不琢不成器人不學

中。古。人。有。言。荆。山。之。璞。雖。美。不。琢。不。成。其。宝。顔。閔。之。亦。雖。茂。非。學。非。弘。其。量。シ。カ。レ。ハ。人。不。學。ト。キ。ハ。其。性。ノ。全。ス。ル。コト。不。能。者。也。朱。文。公。曰。名。雖。爲。人。而。實。無。以。異。於。禽。獸。

譏嫌トハ詐露人事不避譏嫌又淫繁經曰

具足智惠。預見。譏嫌。又。除。陀ノ。遠。離。不。善ノ。願。ヲ。懷。興。ハ。離。譏嫌。ハ。願。トイフ。シ。カ。レ。ハ。

人ノ譏嫌ヲ知トハ人ノソレキヲスベ
キコトハ言モセ又ガヨキナリ。齋
玉ハ。竿トイフ吹モヲ好メルニ。南郭先
生トイフモノ瑟ヲ鼓テ。齋ノ門ニ登コ
機嫌不知イフモノナリ。又機嫌ト書モ。經
釋ニ出タル字ナリトゾ。機ハ發也。嫌ハ
疑也。十云。機者引ノ已ニハ。タントスル
ナリ。嫌疑トハ。ウタガハシク。分ハサ
ルナリ。ムカヘル人ノ喜ブ氣色。怒レルキ
ザシヲミテ。ソレト大ガシルヲ機嫌ヲシ
ルトイフトイヘリ。常ニ機嫌ノ字ヲ用ル
ナリ。又。○安堵スルトイフハ。文選ニ。百姓
安堵。四民不反業。○呂延濟云。堵。壻也。安堵
堵。不失家業ト云。シカレハ。人ノ家ニ堵ヲ
シメハ。ハルヲ。牛馬盜賊モ。乱不入ヤ。ウニ
アルハ。安堵ナリ。蓋囊抄モ。コノ心主。又

坪

文記ノ高祖本紀曰。諸吏人。皆案堵如故。
註應劭云。案。次。兪。堵。牆也。トイヘリ。
主ヲ亭主ト云ハ。前標嚴曰。警如。有客。寄宿
而。掌。郭。人。都。無。所。去。各。為。亭。主。コ
レ。亭。主。ノ
本。譏。ナリ。此ノ。加。ト。ハ。無。任。禪。節。ノ。イ。ハ。ク。
別。ハ。陽。好。ハ。陽。男。ハ。本。鳥。ヲ。上。へ。取。ア。ゲ。女
ハ。髮。ヲ。下。へ。タ。レ。下。ス。コ。レ。陽。陽。ノ。穉。ナリ。
商。ハ。陽。北。ハ。陽。ナリ。コ。ノ。ユ。ハ。二。好。ヲ。北。ノ
加。ト。ハ。イ。フ。ナリ。○冠者トハ。少年ナラズ。
ヨキホドノ。若者ヲイフナリ。小冠者。原杯
イフナリ。上下ニヨラズ。冠シテ。俗。躰。ノ
定。ミ。リ。タル。ホドノ。釋。人。ヲ。冠。者。ト。イ。フ。ベ
シ。卷。源。氏。ノ。君。ナ。ド。モ。元。服。ノ。後。冠。者。ノ。君

トイヘリ。曲禮ニ
十日。冠。冠。イヘリ

大和四

三 魯古トハ

ルコトナリ。○文選東都賦曰。憲章魯古。註
何。曰。憲法也。言法其舊章。考其古事。○按
露。露ノ字。口ヲト非テヨムベシ。披。露ト讀
文ヲ恥。次テ。人ニ見スルトキニ。云。誦ナリ。
然トモアヤマリツケテ。曰。場ニテ物ヲ云
ソグモ。披。露トハイフナリ。○沙汰ノ字
ハ。杜子美。上。韋。尤。相。詩。沙汰。江。河。集。註。曰。
沙汰。以。飾。賤。沙。去。其。細。而。存。其。大。曰。汰。コノ
細ナル口ハ。理非分。曠ニ辨ルコト。沙ヲ汰テ
ルハ。沙汰ナリ。無沙汰ト云
モ道理非ヲ辨。又射ナリ
一切ノ語ヲ擧。曰。一。是。繒。及。之。語。切。是。盡。際

之語又曰。究竟非ニ名。一。其。慙。廣。博。切。
イヘリ。史記。請一切逐客。索隱曰。一切猶一
例。言盡逐之也。設切者。譬若。柳。乃。之。謂。一。運
力。無。不。斷。者。又。師。古。曰。一。切。者。權。宜。之。事。婦
以。刀。切。物。苟。取。整。齊。不。顧。長。短。縱。橫。也。又。一
切。大。凡。也。世。俗。ニ。一。切。ノ。諫。ヲ。且。ト。云。心。ニ
用ルコト常ナリ。一切ヲ和。謂ニツヤク。上
讀セタリ。○云。云。一。切。ハ。前。漢。書。曰。云。云。師。市
云。云。猶。言。如。此。如。此。也。史。記。欲。云。云。又。文
選。銑。注。云。云。謂。辭。多。略。而。不。能。載。也。又。說。文
云。像。雲。氣。在。天。回。轉。之。形。言。之。在。口。如。雲。潤
物。廣。雅。云。云。者。存。也。下。文。尚。有。如。雲。之。言。以
决。味。盡。之。解。ト。アリ。文。句。ニ。ハ。言。下。味。說。者
尚。多。如。雲。云。雲。ノ。字。ノ。意。ナリ。ト。イ。フ。義。也
又。云。云。カ。ノ。十。讀。ナリ。日本紀
河海抄ニ。云。云。ハ。色。々。ノ。義。ナリ

大和四

十三

三 旁若無人ノ字

野○泉○節○十○六○聲○吾○者○皆○悉○官○道○叙○為○
○透○逃○說○非○常○儼○禁○汗○滯○再○
最○媚○葬○極○刑○妙○絕○形○勢○不○利○
耕○天○陰○兩○段○菟○道○肉○沐○浴○齋○戒○
日本紀○外○見○何○不○別○響○八○雲○披○啣○
賦○コ○レ○ヲ○聖○一○國○師○ノ○
○昌○被○紛○幽○邃○憺○恍○楚○辭○業○々○
○會○易○經○安○定○一○取○點○頭○交○時○世○
時○勢○證○文○集○片○方○葉○便○入○蒸○無○扶○
行○白○氏○文○集○籍○聲○風○術○律○蓬○葦○子○六○六○魚○
鯉○事○又○類○集○蓬○累○而○行○阿○衡○以○往○張○目○
○輕○厭○常○慢○易○何○速○也○史○記○眉○山○蕪○
氏○云○忍○軛○腹○如○囊○禮○記○内○則○云○履○著○綦○班○
師○習○日○書○經○破○瓜○說○死○向○影○儵○依○倫○

三 人ヲ誑惑スルモノヲ馬鹿者ト云

人ヲ誑惑スルモノヲ馬鹿者ト云
紀○二○世○皇○帝○三○年○八○月○巳○亥○趙○高○欲○為○亂○恐○
群○臣○不○聽○乃○先○設○驗○持○鹿○獻○於○二○世○曰○馬○也○
或○默○或○言○馬○以○相○誤○邪○謂○鹿○為○馬○問○在○右○左○右○
中○論○言○鹿○者○以○法○後○群○臣○皆○畏○高○コ○レ○ヨ○リ○
本○キ○テ○人○ヲ○誑○惑○ス○ル○
謂○傳○タ○リ○拾○遺○集○ノ○
トイフ人アリケレバカモヲモヲシトヲ

○密○澄○嫂○姪○難○推○辭○行○
一向○向○來○
用○一○邊○平○生○造○仙○窟○
若爾楚辭○微晒鶴林玉露○破顏佛典○勦說他人ノ説
ヲトテ已ガ説トスル也○雷同ノ
言トサレマシヘテイフコトナリ典礼

十四

モフナリケリ。迄ナシトイヘバ。ラシモカ
モトヤ。オモフ。ラシ。鹿ヤ。馬トゾ。イフベカ
リケル。コノ歌ハ。車ノカモトイフ。物ヲ。カ
リニツカハシタル。時讀ルヨシ。詞書ニ見
タリ。潘岳西征賦云。野蒲變而成。鹿鹿化
以爲馬。コノ賦ニ。鹿鹿爲馬。史記ノ。口
ナリ。野蒲變成。鹿鹿ノ。趙高。人ノ順ガ。フカ
順フマ。ジキカラ。引ミン。トテ。潘ヲ。刺テ。職
ナリトテ。二世ニ。殺ツル。群臣ノ中ニ。潘ナ
リトイフ者モアリ。阿リテ。肅ニテ。候ト申
ス都モアリトゾ。コレハ。史記ニハ
不載。風俗通ニ。出タリトイヘリ
三 **無恙** 事物紀原曰。漢義曰。時人以無憂疾謂
之。無恙。又神異經曰。北方有獸曰。無恙。其
也。常遊人。極落。入人屋室。人皆患之。黃帝
極之。由是此。方人。方得無憂疾。謂之無恙。此

其也。麕謂ニハ。麕ト。怒トハ。別ナリ。後ハ
獅子ニ。侶タル。獸ナリ。恙ハ。憂也。病也。楚詩云。
善食人。心ナリ。神異經云。恙恙ヲ。合ノ。二
スルハ。誤レリ。史記。刺。劾。傳曰。爲。老。母。報
無恙。妾。妹。嫁。索。隱曰。爾雅云。恙。憂也。楚詩云。
遷及吾。君之無恙。風俗通云。恙。病也。易傳云。
上古之時。野。居。露。宿。恙。蟲也。善食人。心。俗
恙。恙之。故。相。勞。云。無恙。恙。將。病。イヘリ。戰。國
策。歲。無。恙。耶。王。亦。無。恙。耶。道。春。ノ。云。無。恙。ノ
字ハ。戰。國。策。ヨリ。出。タリ。ト。右。恙。ハ。驚。ト。イ
。疾。ト。イ。ハ。驚。ト。イ。ハ。驚。ト。イ。ハ。驚。ト。イ。ハ。驚。ト。イ
。問ニ。無。恙。ト。イ。フ。ハ。驚。ノ。訛。ト。イ。フ。中。ニ。書
三 **完賢** 書。楷。ノ。同。事。ニ。テ。ア。ラ。オ。フ。ロ。シ。ト。恐。慚
ツ。シム。心。ナリ。ト。又。假。名。文。ニ。カ。シ。ク。ノ
ト。諺。モ。ア。ナ。カ。シ。コ。ラ。ア。ナ。カ。シ。ク。ト。起。ノ

轉ズルナリトイヘリ又云此事アナカレ
 コ人ニ詔ルナンドイフハアナカマヘ
 テク。愷ヨト。昨ヲカタメタル心ナリ。下學
 集云。宥賢ハ上古特和漢兩國未知家人居
 土。窠恙。蛇螫人。故本朝書札未日。宥賢。言土
 窠之宥。賢。開塞。昨防。恙。蛇。コレハ。窠。鑿ノ義
 二倍タリ。彼集ニ。夕カバカリヲ鷹ノコト
 ノ故ニテ。一尺ヲイフトイヘリ。和器ニ。竹
 量ト。書テ。竹ノ物サシナリ。箇
 様ノ類。多シ。可辨者。狢。或抄ニ見
 天知地知コレハ。巳バカリ。密ニ爲ト。思コ
 ヘテ。惡事ヲ。巧ナトイフコトナリ。後漢ノ
 揚震トイフ者。東萊ノ大守。夕ル。曷。邑ノ
 令。玉。密トイフモノ。夜ニ入テ。黃金十斤ヲ
 目テ。揚震ニ遺震コレヲ不受。玉密カ云。夜

四

知神知子知我知何謂無知密愧而出トイ
 へリ。後漢書列傳。掛韻氏。揚大全ニハ。天知地知
 トアリ。日記。故事ニハ。揚震知金。紫。未ニハ
 震畏。四知。トイフ。孔子魯ノ
 十分ハ覆ル。桓公ノ廟ヲ觀タマフニ。有
 敬器。孔子コレヲ守。廟者ニ問タマヘバ。コ
 レハ。侑坐ノ器ナリ。孔子曰。吾聞。靜坐ノ器
 ハ。鍾ナルトキハ。歌中ナルトキハ。正。蒲ト
 キハ。覆ナリ。明君以。識トス。故ニ。常ニ。坐ノ
 儼ニ。置。饒。謂。新。子。曰。試ニ。水ヲ。注。ス。ナ。ハ。千
 木ヲ。入。レ。バ。中。分。ナ。レ。バ。政。ク。十。分。ナ。レ。バ。
 覆。夫。子。喟。然。ト。ノ。嘆。曰。嗚。呼。夫。物。惡。有。滿。而
 不。覆。哉。家語三恕篇。文。子。曰。三。皇。五。帝。有。勸。戒。之

五

器名備倉今世二十一分極トイフ危ハコノ
類ナリ滿ラ恐事易乾則ニ上九龍有悔
象曰九龍有悔盈不可久也又周易天道虧
盈天曰日中則昃月盈則虧老子經曰不
其高史記曰物至則反冬是也致至則危
又曰物禁太盛又物極則衰尚書曰滿招損
釋名云勝飲也滿則飲トイヘリ諺ニヲモ
ヘタゞミツレバヤガテカク月ノイザヨ
ノ空ヤ人
ノ世ノ中

六十四 人間萬事塞翁之馬

不可極トイフ諺ナリ塞上ニ翁アリ馬故
ナクシテ亡テ胡トイフ所へ行タリ人皆
コレヲ用ス翁カ曰コレ何遽不爲福乎木
ト經テ後カノ馬善馬ヲ引連テ歸人マタ

三十四

十日ノ勤學ヨリ一日ノ名面

一日師匠ヲ殺テ教ヲ受ヨトナリ揚子
言曰勢學不如勢求師者人之模範也ト

是ヲ福翁カ曰何遽不能爲福乎翁家良馬
ニ鬪其子騎コトヲ好テ馬ヨリ墮テ鬪ヲ
揮抑人皆是ヲ駭翁カ曰コレ何ニハカニ
不爲福乎居一年バカリ胡ノ人大ニ塞ヲ
聲健ナルモノハ皆戰ニ出テ遊獵之人死
スル者皆中ニ九ナリ翁ガ子ハ踐タル
ヲ以テ不戰シテ父子相保故福之爲福禍
之爲禍化不可極深不可測也淮南子人門訓
子脫謂禍兮福所倚福兮禍所伏塞翁ガ馬
ノ事ヲ諺ニコ、ロヲバ北ノ翁ニナラヘ
ドモ、マタタチカヘルコマダニモナシ
塞ハ北ノ翁ナレバ北ノ翁トヨムナリ

大分

イヘリ。摸範トハ。法武擬ナリ。手本トイフ
コ、ロナリ。又極譚新論目三歳學不効三
歳擧
師矣

旃檀ハ二葉ヨリ香

檀トイフ。目出タキ香トイフ。非也。牛頭旃
有西域諸國。不生中華。イハシヤ本朝ニア
ラシヤ。大智度論ニハ。旃檀ハ摩訶山ニ
出ト。華嚴經ニ旃檀一鉢ヲ燒ハ。小千世界
ニ薰ズトモ。説リ。觀佛三昧經ノ意ニ云ク
伊蘭林トテ。臭木アリ。其華煎ヲ嗽ハ。狂
テ死ス。此木於四十由旬ナランニ。カノ牛
頭旃檀生出ト。其香發シテ。伊蘭林ノ臭ヲ
變敗シテ。普皆香羨トスト説リ。今ニ葉ト
イフハ。焔テ生ズルノ形ナリ。サテ此譬ハ。

若木ノ下テ笠ヲスゲ

若木ノ下テ笠ヲスゲ
コノ説ハ。今ハ弱村
ナレドモ。後ニハ何
テトテ。此トテ。人ヲ
若年ノ人ヲ
如何學若ニヤ十
高佐高。二モナルベ
論語曰。後生可畏
也。焉知來者之不如今。又文選曰。後生可畏

豪傑ノ譽ハ。如雅トキヨリ。其志氣ノ羨ア
ラハル。ユト。旃檀ノ二葉ヨリ香シキガ
ゴトクトナリ。麝ノ白樂夫ハ。生テ七月ニ
シテ。能展書撮之無二字。雖百説不差。又宋
人陸九淵ハ。三歳ノ時。問其父曰。天地何
所。窮際対笑。而不能答。遂深思。至忘寢食。イ
ヘリ。此等之人。古今典
難所載不遺枚舉也

來者難誣。コ
口誣ニ吐ハカ

〔卑〕逃テ通セ酒ニ酔タル者ハ無礼ヲシ。善カ

ラスコトアリトモトガメズシテ。勉テ通
セトナリ。君仁政ヲナシタマフニハ。醉人
ヲ不罪トイフコトアリ尚書ニモ。酒于酒
勿庸殺コレモ酒ニ酔テ正念ナキ時ハ。法
ヲ犯非義アリトモ。死罪ニハ行ベカラズ
トイヘリ。内卦爲丞相御史醉歐其車吉不
責也。コレモ内卦ガ車ヲアツカフ御吏車
ノ上ニ歐吐ドモ。醉テスルコトナレバト
テ不責トイヘリ。公ノ法ヲ犯者サヘ。魁ル
例アルニ。下々ノ者。醉人ニ對シテ。物トガ
メスル莫不可有。逃テ出合ガヨシ共
又醉人ニハ。逃レテ出合ガヨシ共

〔五〕上戸下戸 下戸。集日。上戸下戸。就酒日本ノ

集日。猶嫌小戸。長先。醉意以飲酒。多者爲大
戸。小者爲小戸。又江次第日正月三朝定御
藥後取並用高戸者。シカレバ上戸ヲ
バ大戸トモ。高戸トモ。イフナルベシ

〔卑〕猪武者 ヲノ世語ハ。懲コトヲ知テ。退コト

トハ云昔。梶原平三景時。船官義經ヲ以テ
猪武者トイヘリ。コレヨリ義經。怒ヲ梶原
二結ト見ヘタリ。前漢書。食貨志曰。匈奴
寇甚。莽大募天下囚徒人奴。名曰猪突豨。使

〔評〕大福長者 富長者。コノ心ハ。手ハ。必作天

武者ノ意。致異域同譚ナリ

武者ノ意。致異域同譚ナリ。手ハ。必作天

クナル生得ハ。必ず長者ニナルトイヘリ。
人ヲ見テ。壽ヲトシ。貧福ヲ定ルノ術アリ。
見テ。壽ヲ謂者。殊シ。

四 長者富ニ不厭

ハ。唯財宝ニ富ル者ヲイフナリ。天竺ニテハ。須達那伽羅王。富ル人ナリ。コレモ長者トイフ名義集曰。長者。西土之豪族也。富商大賈。積財鉅萬。成林長者。サレバ世語ノ意ハ。富者ハ。必慳貪ニシテ。財利ニ於テ。愈疾テ。愈不足ニ思フモノナリ。是ヲ長者富ニ不厭モノナリ。五糶。越云。富者多。慳。慳。不。能。富。也。錢。ア。レ。ド。モ。不。用。富。テ。モ。不。足。ス。ル。モ。ノ。ハ。佛。家。ニ。コ。レ。ヲ。有。財。鬼。ト。云。佛。者。是。ヲ。宗。錢。奴。ト。イ。フ。ナリ。唯。足。コ。ト。ヲ。知。ト。

テ。佛ハ。妙。妙。知。處。ト。説。佛。ニ。知。足。知。止。ノ。説。アリ。莊。嚴。論。曰。知。足。第一。富。又。遺。教。經。ニ。云。不。知。足。者。雖。富。而。貪。ト。モ。ア。リ。

五 狂人走不狂人走

録。ナ。ド。ニ。出。タル。説。ナリ。東。走。東。走。則。同。所。以。東。走。則。異。○。狂。人。ナリ。獨。人。ノ。真。似。ト。テ。大。路。ヲ。走。バ。則。狂。人。ナリ。

六 人至テ惠ケレバ友ナレ

ノ。コ。ノ。世。語。ハ。家。語。清。則。無。魚。人。至。察。則。無。徒。○。漢。書。ニ。モ。出。夕。ル。語。ナリ。徒。ノ。字。ヲ。從。ノ。字。ニ。修。ナリ。意。ハ。水。ア。マ。リ。清。ケ。レ。バ。甚。寒。ズ。ル。ナリ。魚。ハ。水。ニ。生。ス。レ。ド。モ。陰。中。ノ。勝。ナ。ケ。レ。バ。生。ゼ。ガ。

六季四

ルナリ。イカニ清ガユキトテ清過レバ
ガナイゾ。人モ慧明察ナルガヨキトテモ
齷齪。智慧ダテニテ。推察スグレハ人コレヲ
惡テ。姦ナク從者モナキナリ。又聖人ニア
ラザレバ察スルホドノ事間
非ナキ事アタハストアリ

七

綸言如汗

ハ。玉ノ言ナリ。○禮記緇衣篇曰。子曰。綸言ト
如。綸。其出如。綸。玉。言如。綸。其出如。綸。故大人
不。得。游。言。編。言。ノ。二。字。ハ。此。篇。ヨ。リ。出。ル。ト。
婦。汗。ト。ハ。編。言。下。テ。再。カ。ヘ。ラ。ザ。ル。コ。ト。
ノ。コ。ト。レ。ト。ナ。リ。○漢書曰。魏令如。汗。出。而
不。反。者。也。魏。令。ト。ハ。命。令。ト。モ。イ。フ。コ。レ。モ
上。ヨ。リ。下。ニ。御。付。ラ。ル。コ。ト。ナ。リ。又。政。令。
猶。汗。性。而。不。反。コ。レ。モ。同。談。ナ。リ。綸。言。如。汗。

八

命ハ義ニヨリテ輕

連。續。シ。タ。ル。文。字。ハ。經。傳。ニ。不。見
ト。モ。其。義。ハ。ノ。ナ。ハ。リ。タ。リ。ト。ソ
ニ。世。上。血。氣。ノ。勇。者。ハ。一。朝。ノ。怒。ニ。命。ヲ。輕
シ。テ。自。如。ヲ。踊。テ。身。ヲ。亡。セ。或。ハ。又。羊。質。虎。皮
ノ。武。士。ハ。太。義。ヲ。忘。テ。主。君。ノ。恩。ヲ。不。顧。君
ノ。タ。メ。ニ。死。ス。ベ。キ。時。モ。命。ヲ。輕。シ。テ。遁。隱
族。ア。リ。コ。ノ。者。ハ。命。ハ。義。ニ。ヨ。ツ。テ。輕
ト。イ。ヘ。ル。朱。穆。カ。言。ニ。ハ。天。地。懸。隔。ナ。リ
九。辭。多。ハ。品。少。語。ヲ。ホ。ク。急。ニ。輕。ク。シ。ク。モ。ノ
イ。フ。者。ハ。品。節。ナ。キ。モ。ノ。ナ。リ。コ。レ。小。人。ノ
事。ナ。リ。サ。レ。バ。疑。太。傳。云。吉。人。之。辭。寡。躁。人
之。辭。多。ト。イ。ヘ。リ。又。君。子
汎。思。一。言。ト。云。コ。ト。ア。リ

九

辭多ハ品少

汎。思。一。言。ト。云。コ。ト。ア。リ

五 身サへ心ニ任ヌトイフコトヲ

任運アルベキ心地ノ迷懷ニ我身ヲ我
オモフニモカナハヌニ人ヲコノ口ニ
カスベシヤハ又ヨシサラバモノヲ心ニ
マカセシヨ心ヲモノウチマカセツ
テ。タテマツリケル歌山人ノコレルタキ
ギハ。君カタヌオホクノトシフツマン
ゾオモフ。御返歌トシノカスツマン
ナル。オモニハイトバコツケヲコリモ
ツヘ
ナシ

五 重荷ニ小付

後撰和歌集ニ云今上梅壺ニ
ヲハシメシトキ薪コラセ
テ。タテマツリケル歌山人ノコレルタキ
ギハ。君カタヌオホクノトシフツマン
ゾオモフ。御返歌トシノカスツマン
ナル。オモニハイトバコツケヲコリモ
ツヘ
ナシ

五 一樹ノ景一河ノ流モ他生ノ縁

縁アリトイフニハ非ス。一樹ノ大樹ニ
二人雨ヤドリスルモ熱サヲ凌モ生々ノ
縁ナリ。一河ノ流ヲ二人汲
合モ世々ノ縁ゾトナリ

五 履新トイヘドモ冠トセス

位ヲ亂ベカラズトイフ
林傳云。黃生云。冠雖敝必加於首。履雖新必
貫於足。師古註云。語見太公六韜。又說苑奉
使篇云。冠雖敝。宜加其上。履雖新。宜居其下。
謝コレ等ヨ

四 日暮道遠

白屋別傳。日暮道遠。吾生已蹉
年ヨリタル人。又病アル人。ナドノ菩提ノ

道ニ志シナキハ其時ヲウレナヘルモノ
ナレバ。萬ノ事ヲ放下シテ。一大事ヲ勤ヨ
トナリ。世語ニ日暮テ道イソクコレモユ
キツテリテカラ。俄ニハカルノ驗ナリ。古
語ト語
勢相侶

五十一 世短意多

古詩云。人生不滿百。常懷千歲憂。
多是也。東坡云。意長
日月。似鶴林玉露

五十二 鷄口牛後

史記。蘇秦列傳云。鄙諺云。寧爲鷄口。不爲牛後。索隱云。戰國策云。寧爲鷄口。不爲牛後。延篤註云。尸。鷄中。主也。從謂牛子也。言寧爲鷄中之主。不爲牛子之從也。正義曰。鷄口。雖小。猶進食。牛後。雖大。乃出糞也。代醉編。卅六。二。七。出。

五十三 怨八恩テ報セヨ

老子經云。報怨以德。諺云。何
六云。以德報怨。或曰。以德報德。佛經載。釋迦佛以報德。以直報怨。以德報德。佛經載。釋迦佛在山中修行。歌利王入山獵獸。問佛。獸何在。佛不。忍。傷。生。不。應。歌利王怒。佛。願。曰。我。若。問。不。應。入。截。落。右。手。佛。後。成。佛。即。成。佛。先。度。此。人。無。令。狂。後。成。佛。即。先。度。之。十。大。弟。子。中。陳。橋。如。掌。者。是。也。法苑珠林。九。十。九。二。載。爾。ト。コ。ロ。新。婆。沙。論。ノ。說。ナ。リ。斬。臂。ノ。緣。小。ノ。異。ナ。リ。歌。利。ヲ。羯。利。二。作。ル。陳。憍。如。ハ。橋。陳。那。ナ。リ。又。釋。迦。文。佛。ノ。因。位。忍。辱。仙。人。十。イ。フ。時。ノ。事。ナ。リ。大。藏。一。覽。三。忍。辱。品。二。出。夕。リ。コ。レ。諺。ノ。怨。ハ。恩。テ。報。ズ。ル。ノ。意。ナル。ベシ

五十

驥驎モ老ヌレバ驚馬ニ劣

驥驎トハ一日

コロノ善馬ナリ。聖代ニ出ル。驥驎ニハ非
ス。驚馬トハ下ノ乘ナリ。俗ニ謂小荷駄馬ト
イフ類ナリ。サレハ該ノ意ハ若時ハ猶カ
モ壯ニ。智惠オハ學アリト見ル人モ老ニイ
タリテ。智惠モ劣。精加モ耗テ。用ニ夕チガ
タキヲ論コトバナリ。戰國策曰。驥驎之衰
也。取馬先之。又史記列傳。驥驎盛壯之時。一
日而馳千里。至其衰老也。驚馬先之。コレ世
語ノ本根ト
コロナリ

五十一

青ハ藍ヨリ出テ藍ヨリ靑

意ハ靑色ハ藍

藍ヨリモスグレテ靑。學問油断ナク勤
レハ。亦木性ニスギ。弟子モ師匠ニシテ
レハ。亦木性ニスギ。弟子モ師匠ニシテ

ベシ。荀子勸學篇云。君子曰。學不可
出之。藍而靑。於藍水爲之。而寒於水。註
學則亦過其本性。又史記三王世家云。傳云
靑采出於藍。而質靑於藍者。教使然也。コノ
意ヲ以テ。西行ノ歌ニウクヒス。古巢ヨ
リタツ子規。アイヨリモコキ。コエノイロ
カナ。コレハ鶯ノ巢ヨリ郭
公ノ生ルトイフコトナリ

五十二

婦ガ姑ニ成ハ程ナシ

流行速ニテ老年

二至ルコトノ程ナキ。婦今爲婆。諺ヨク
人。命百年能幾何。後來新婦。今爲婆。諺ヨク
叶ヘ

五十三

比翼連理ノ契トハ

在天願作比翼鳥。在地

願為連理枝。是八玄宗皇帝楊貴妃上天寶
十年七月七日。牛女ノ事ニ感シテ。夫婦ノ
誓ヲ為タマフコトバナリ。比翼トハ羽ヲ
比テ飛鳥ナリ。山海經云。崇吾之山有鳥焉
其狀如鳥而一翼一目。相得乃飛。名曰蠻蠻。
郭璞傳云。比翼鳥也。色青赤。不比不能飛。又
爾雅云。南方有比翼鳥焉。不比不飛。其名謂
之鵲。々々。連理ノ枝ハ二木連枝ナリ。古人ハ
コレヲ吉瑞トスルナリ。漢ノ蔡邕。宋ノ徐
積。ミナ孝徳ヲ以テ連理ノ異アリト。史傳
ニコレヲ稱セリ。歌ニハ比翼ヲ羽ヲナラ
ブル鳥トヨミ。連理ヲバカハセル枝トヨム
ナリ。何モ夫妻ノ契ノ淺カラヌヲイフナ
リ。大鏡ニ曰。村上天皇宣耀殿ノ女御ニ夕
マハル御歌イキテノ世シテノ後ノ後
ノ世モ羽ヲナラブルトリトナリナシ。女

八玄宗

二十五

御ノ御歌ニ。アキニナス。コトノハタニモ
カハラズハ。我モカハセル。枝トナリナシ。
色トイヘハ。女ノ事ニナルナリ。曰。女有美
色。男子悦之。故經文。通女曰色。佛祖ニ經曰。
佛曰。愛欲莫甚於色。色之為欲。其大無外。
木ヲ刻テ。人ノ手ノ如シテ。背ノ痒ヲ搔モ
ノアリ。コレヲマゴノ手ト云。實ニ麻姑ノ手
者ノ妹ニ麻姑トイフ仙人アリ。其手似鳥
爪。蔡絛ト云者。私念ハ背ノ痒時。此麻姑カ
爪ニテ搔ナラハ。佳トオモヘリ。於平陽。其
テ。蔡絛ガ背ヲ鞭曰。麻姑ハ仙人ナリ。汝其
爪ニテ背ノ痒ヲ搔ベシト謂ヤ。列仙傳ノ其
三ニ見タリ。今ノ麻姑ノ手ノ本ヤ。列仙傳ノ口

八玄宗

二十五

十リ。麻姑ノ手ヲ谷瓜杖。又曰檢杖。○齋北
集齊和子ノ詩ニ云ク。匪離匪離轉風流。鬢
髮麻姑指瓜頭。一披諸方
痒處盡虚空。背上有瘡不

醉

鉄鎚ヲ玄翁ト名ルハ

于時下野國那須ノ野ニ石アリ。物アツテ
コノ石ニ憑リ。人畜禽獸コノ石ニ觸者近
モノ皆死ズトイフコトナシ。飛鳥モ石上
ニ及トキハ忽ニ墮テ死ス。其毒靈如此。時
ノ人各テ曰殺生石。其時カノ玄翁禪師杖
ヲ以テ敲石三下曰。汝元來石頭性。從何來。
靈從何起。又敲三下。石震動。流汗。泠然解散。
毒靈自此燔焉。日本之石匠以玄翁名鐵鎚
者。權輿於此。玄光ノ玄翁ノ傳ノ意ナリ。傳
テ云殺生石ノ毒靈ハ人玉七十六代近衛

院ノ宮女玉藻前ガ怨靈ナリト。又謠ニハ
鳥羽院トアリ。出生出世夕シカナラ又者

上。三ヘタリ。本朝神社考ニ玉
藻前カ事ヲ載タリ。街テ可見
出タリ。庖下

碎

庖下ノ名ハト

手ノ所觸有之所倚足之所履膝之所躡若
然。嚮然奏刀駭然莫不中音。合於桑林之舞
乃中經首之會。文惠君カ曰ク。譚善哉。技ハ
蓋到此乎。コレ庖下トイフ者ノ。膠ヲ以テ
牛ヲ割解事ニ妙ヲエタル。更ナリ。是ヨリ
本テ。今モ肉ヲ割刀ヲ。庖下トハヨブナリ

漢語大和故事卷之四終

十四 藝ハ身ヲ祐ゲイ 十五 十遍讀ヨリ一編寫シヨク

十六 七夕ニ尋テ人ヲ疑ナツチ 十七 坊主ガ憎ケレバ袈裟一ツテ憎シバツジ

十八 頭剃ラシヨリ心剃イデ 十九 鱒ノ頭モ信ジカライシ

二十 形ハ生トモ心ヲ不生カタチ 二十一 綿ニ鍼ヲ裏ワタ

二十二 強木ハムズ折ツヨキ 二十三 痛ナキ腹サグラレナイタ

二十四 猿モ木カラ落ルサル 二十五 岩ニ花イハ

二十六 優曇華ウツドンゲ 二十七 蛇ニ足ナシ魚ニ耳ナシヘビ

二十八 下子頭シロコ 二十九 雨ヲト夏アメ

三十 相火ヲ不食并火ノ物断ソウビ 三十一 就木ノ事ツケギ

三十二 貧ハ病ヨリ苦シヒシ 三十三 富テハ驕リ貧ナレバ誦フトシ

三十四 フチブレルト云字フチ 三十五 鷹ハ死ヌレト徳ツツマズタカ

三十六 鷹ハ死ヌレト徳ツツマズタカ

附蛇ニ足アル事并ニ聾ノ字義

一六五五目録

三七 黒犬ニ嚙レテ尻ノ和津ニ恠

三八 琥珀塵ヲ吸汚ラ不吸

三九 麩食蟲

四十 鰻魚モ一期鰻魚モ一期

四一 問ハ一旦ノ耻問又ハ二期ノ耻

四二 人ハ名ヲ惜虎ハ毛ヲ惜ム

四三 時ニ遇ハ鼠モ虎トナル

四四 網無フテ困ナ望ノ 四五 今泰二十日

四六 愛子ニ旅サセヨ 四七 燈滅トテ光ヲ増

四八 水ニ盡 四九 一葉落テ天下ノ秋

五十 一紙半錢 五十一 山礪河帶

五十二 株ヲ守ル 五十三 舷ヲ刻ム

五十四 柱ニ膠ス 五十五 目渡鳥 附日月鼠

五十六 羊ノ歩ミ 五十七 隙ノ駒

五十八 鶏時ヲ鳴事

五十九 鴈ノ使并風ノ使事

六十 犬ノ使ノ事

六十一 馬ニ道ニカスル事

六十二 猫ノ鼠ヲ捕事

六十三 獅子身中ノ虫

六十四 圍碁ハ兵法ノ如シ

六十五 弓ヲ袋ニ納ム

漢語大和故事卷之五目録 畢

漢語大和故事卷之五

一 紙鷲 イホサリノ 今ノ世ヨ兒童ノ事モテアソブモノナリ。是韓信所作。漢ノ高祖陳豨ヲ殺ルトキ

ニ韓信紙鷲ヲ作テ道ノ遠近ヲ量トイヘリ。又梁ノ太清中ニ半佻ト云者小兒ニ教

テ紙鷲ヲ作シメテコレニ詔ヲツケテ風ニマカセテ放之軍中ニ通ゼントストコ

レ等ミナ軍ノ時ニ用タリ紙鷲風鳥イカ

ノボリノ異名ナリ。其有聲者爲風筆。

二 木綿 キワタ 木字木棉ナリ。字彙ノ棉ノ字ノ下ニ

琅邪代醉四木棉植之數千樹採其花紡織

布名吉則又較耕織三聞廣多種木綿本朝二傳
 為布名曰吉則正ノ間ナリ日本ニアル
 ルコトハ永祿天正ノ間ナリ日本ニアル
 事僅ニ有餘年ナリトイヘリ上ヨリ
 永祿ノ比テハ下民ノ衣服ハ麻葛ノ類
 ナリ故ニ賤者ノ服ヲ布子ト云ハ上代ノ
 麻布ノ遺語ナリトイヘリ

三 西瓜 西代如中國終而味中丹餘錄據
 此謂西瓜五代始入中國故本草不載水東
 日記又曰西瓜即元太祖征西域始得コノ
 外説ヲ數多載タリ可見近世コノ物ヲ賞
 ズルコト諸此ニ勝リ故ニ其端ヲ記スル
 モノナリ

四 佗波古

或云羅山子曰佗波古希施婁皆番
 語也曆代ノ本州ニ此草ヲ不載故
 二其能毒名義不祥也羅山子以爲コノ物
 作ノ筒ヲ以テ烟ヲ吸ノ故ニ葭若ノ流ト
 ス相似タルヲ以テ言テ之其實ハ非ナリコ
 レヲ本草綱目ニ考テ可辨今ノ俗葭若ヲ
 以テ此州トスルハ取非也トイヘリ明ノ
 人ハ佗波古ヲ烟草トイヒ希施婁ヲ吹烟
 管トイフトコノ草古ハ我國ニアルコ
 トヲ聞ス慶長年中ニ南蠻ヨリ始テ種ヲ
 傳トイヘリ

五 聖人二無夢

淮南子曰夫聖人用心恍惚依
 神相扶而得終始是故其寐不
 寢其覺不憂トイヘリ先儒曰事有兆朕入
 夢者却無害捨此皆是妄動トモイヘリ

子周公且ヲ夢高宗傳説トイフ。賢人ヲ夢
 事ハ大跡ノ人信シカクキ所ナリ。サレト
 モ實理ナリ。十聖一ハハシメヨリ隔ナシ
 心ニ聖賢ヲレタフコト。實ニ微スレバ有
 人モ自然ニ夢中ニ現ズ。譬バ方噴ノ清水
 二。遠山ノ影ヲ見ルカゴト。遠山不來澄水
 潭。不レ去。二ノ影ヲ見ルカゴト。遠山不來澄水
 カハレズ。續無名抄ノ意。夫子周公ヲ夢ノ
 事論語述而篇大全ニ諸儒ノ説ヲ舉タリ
 可。見。シ。カ。レ。ハ。聖。人。ニ。無。夢。ト。公。夜。之。夢。猶
 畫。之。思。也。聖。人。ハ。畫。邪。思。ナ。ク。レ。ハ。夜。又。邪
 夢。ナ。シ。其。邪。夢。ナ。キ。フ。無。夢。ト。ハ。云。ナ。リ。
 莊。子。云。真。人。無。夢。○。太。惠。語。録。ニ。聖。人。無。夢。
 コ。ノ。無。ノ。一。字。ハ。有。無。ノ。無。ニ。ア。ラ。ス。世。ニ
 ナ。始。ヨ。リ。終。朝。ヨ。リ。終。夜。ノ。夜。ノ。間。何
 事。カ。夢。ニ。ア。ラ。ス。ヤ。ト。觀。シ。タル。ウ。ヘ。別。

六

夢トイフベキ夢ナシト。悟得タルトコロ
 也トイヘリ。又文句云。夢者從須陀洹。至支
 佛。悉有夢。唯佛不夢。
 無。疑。無。習。氣。故。十。リ。
 六。夢。ハ。謂。之。想。○。華。嚴。大。疏。云。夢。是。神。遊。亦。見
 聞。之。氣。分。也。又。大。論。云。五。夢。一。熱。氣。多。故。夢。火。
 二。冷。氣。多。夢。水。三。風。氣。多。飛。空。四。見。聞。多。入
 夢。五。天。神。興。ト。イ。ヘ。リ。又。法。數。云。四。夢。一。无
 明。習。氣。夢。二。善。惡。先。徵。夢。三。四。大。偏。增。夢。四
 巡。遊。日。識。夢。善。見。律。云。四。夢。四。大。不。和。夢。先
 見。夢。天。人。夢。想。夢。○。東。萊。讀。書。記。曰。一。身。盈
 虛。消。息。通。於。天。地。應。於。物。類。故。陰。氣。壯。則。夢
 激。大。水。恐。懼。陽。氣。壯。則。夢。涉。大。火。陰。陽
 同。壯。則。夢。生。殺。甚。飽。則。夢。施。甚。飢。則。夢。取。是
 以。浮。虛。為。病。者。夢。以。沉。實。為。病。者。夢。溺。藉。

帶而寢則夢蛇飛鳥嘯髮則夢飛トイヘリ
文句云從五事故有夢以疑心分別覺習因
現事非人來相語因此五事夢トイヘリ竹
書紀年註載堯有聖德封於唐夢擧天而上
舜耕於歷夢眉長與髮等遂登庸代斟古吳録
云丁固夢松生其腹上謂人曰松字十八公
也后十八歲吾其為
公乎卒如夢焉家末

七 夢ヲ台事

夢寤夢喜夢懼夢第三思夢ノ下ニ云夢平
時所思而夢若孔子夢周公是也トイヘリ
劉向新序云諸侯夢惡則修身如是則禍不至○愚宜
善夢ヲ占フ魏ノ太史問云吾昨夜夢三芻
一テツクリタル狗ヲ見ルコレヲ占フベ

ト周宣敬テ云君必羨食ヲ得此ヲ行果
レテ豐膳ニ遇後又太史周宣ニ問テ云昨
夜復芻ノ狗ヲ見ル何也宜云君車ヨリ墮
テ脚ヲ折ト欲ス可慎果レテ車ヨリ墮
テ足ヲ折後又太史宣ニ問テ云ク昨夜又
芻ノ狗ヲ見ル何也宜曰君ガ家失火アル
ベシ善コレヲ護トイフ果レテ太史ガ家
ニ火起トキニ太史曰頃イフトコ口皆夢
ニアラス聊サカ試ニ問ノ然ニ何以テ
カ皆驗アル宜答テ云此神靈動君使言故
與真夢無異トイヘリ又問曰芻ヲ夢ル
コト三ナリ三十ガラ不問何也宣答曰芻
狗ハ祭神ノモノナリ故ニ君ガ始ノ夢ハ
飲食祭祀ヲ可得理ナリ祭スギヌレハ
狗捨ラテ為車レキニジラルナリサテ芻
ニ中ノ夢ハ墮車脚ヲ折ベキナリサテ芻

狗ステニ轅レテ後必ズ薪トナルベシ故
 ニ後ノ夢ハ君ガ家ニ火アラントハ
 トイフ本朝ニ鹿ノ夢合テイフ事アリ
 ノ國風土記云昔一人アリテ免我ニ行
 野中ニヤトル時ニ一人アリテ免我ニ
 セル維明ニ至リテ薄生夕鹿ニ語云我
 夜ノ夢ニ我背中ニ薄生夕鹿ニ語云我
 我身ヲオホフ時ニ薄生夕鹿ニ語云我
 シナラシ鹿谷ニ出テ行キ武士ノル
 爲ニ射コロサレテ即身ニ鹽ヲ又ラアル
 シトヤドレル人聞テ心内ニ是ラアヤ
 シムイマダ曙ニ不及テ獵人イタリテ
 壯鹿ヲ射テ殺ソ時ノ人ニ是ラアヤ
 合ノマニク日本紀ニモ此事記セリ仁
 天皇三十八年秋七月晦日ノ事ト見
 タリソレヨリ免我野ヲ愛野トモ名ケ

八 邯鄲之枕

タリトゾ。西行譚ニ夜ヲノコス子サメニ
 毘バ哀ナリ。夢野ノ鹿モカクヤナラ
 邯鄲之枕。太唐開元七年呂翁ト云モ
 行テ舎ニ息テ囊ニ得夕リ邯鄲ノ道中
 年盧生ト云者短禱ノ賜キテ衣ト青駒ニ
 乘同此所ニ來テ召翁ト共ニ語ス時ニ
 生我衣裝蔽テアハレナク是也呂翁ガ
 テ云太夫生テ世不諧困如是也呂翁ガ
 ク其困窮ヲ歎コトハ何也盧生ガ曰吾
 ニ學ニ志ス自惟我用テ猶畎畝ニ勤因
 ベレト今已ニ壯ヲ過テ猶畎畝ニ勤因
 非スレテ何ゾ言詔テ盧生曰吾子ム
 タキコトヲ覺ユ其時主ハ方ニ叅ヲ蒸セ
 リ呂翁乃囊ノ中ヨリ枕ヲ出シニ叅生
 授テ曰子此枕ヲ中ヨリ枕ヲ出シニ叅生

ナラシメテ其枕青磁ニシテ
 アリ生ズト俛テコレニ就
 バ漸大ニ明ナリ身ヲ擧テ
 小忽吾家ニ歸ス數月アリ
 女ヲ娶テ容ス久テ麗生質
 進士ニ擧レテ登第ス滑南ノ
 二監察御史ニ遷起居舍人
 三年ニシテ同州ヲ典知制誥
 道ノ探訪使ヲ領シ微テ京兆
 歲神武皇帝方ニ戎狄ニ事
 河南通ノ節度ニ除セラレ大
 破テ功アリ吏部侍郎ニ轉
 史大夫ニ遷ル故アリテ端州
 夕リ三年ニシテ微テ常侍
 中書門下平章事トナル
 ヲヤメラレテ章事トナル
 流ル數年ニシテ帝

九

遊仙ノ枕ト云ハ

贈元遺事曰龜茲國進奉
 一枚其色如碼瑙溷々

寤ヲ知シメテ復進テ中書令トナル
 國公ニ封セラレルコノ時ニ子五人アリ孫
 十餘人アリ盧生年八十ヲ逾テ病テ命終
 ルト覺テ欠ニ伸シテ夢覺夕リ其身其
 マ郵舎ニアリ呂翁ト坐ス主叅ヲ
 蒸テ味熟ノ間ナリ盧生蹶然ト坐シテ
 日豈其夢ナラン力呂翁ガ曰人世之適亦
 如是矣盧生無然トシテ良久シテ謝曰夫
 寵辱之道窮達之運得喪之理死生之情一
 室所ニ以ナリ敢不受教誓首拜而去トイ
 ヘリコレヲ盧生ガ一炊ノ夢トイフナ
 リ右記ノ意ナリ

如玉其制作甚撲素若枕之十洲三嶋四海
五湖盡在夢中所見帝因立名爲遊仙枕後
賜與楊國忠○遊仙枕ノ詩一枕仙遊處自
如蕭然情思離塵區十洲三嶋經行處知有
眠峨劍閣無

十 耳垂珠

神相全編云取厚而堅聳而長皆壽
財壽財肉都富足耳薄如紙貧窮無倚一へ
事コ、ニ

十一 苦手

靈樞云瓜苦手毒者爲事善傷者可使按
下而按其上五十日而死矣コレ世ニイフ
苦手ナリコノ者羊ノ莖ヲ折ニ其味苦

十二 石臼

世話ノ意ハ藝能多ケレトモ不精
又腹ノ痛ヲ押テ効アリ又蛇ヲ捕ニ蟠テ
不動俗ニ蛇ダマシト云コレ苦手ノ者也

十三 登馬

凡馬ヲ乗コトヲ學者ハ始ハ登ニ乘
テ其法ヲ習法ヲ知ニ及テ實ノ馬ヲ御
コトヲ知テ馬ヲ御コトヲ不知ハ御也

六十五

然ハ有知無行御馬善御トイヘトモ是安行ナリ知不樂
而御馬善御トイヘトモ是安行ナリ知不樂
者不盡馬情是與堯馬異域同譚ナル者乎
藝ハ身ヲ祐餘ハ禮樂射御書數ノ六也其
長ビタル者ハ其身ヲ祐ル事曜ナリ是世
進學解云各一藝者無不庸トイヘリ是世
詩ノ藝ハ身ヲ祐ルト云所必ナリ

四十

十遍讀ヨリ一遍寫
麗宸翰編寫九經又掌御書漢光武紀朕思讀十遍不
政徐俯曰卿勸朕讀光武紀朕思讀十遍不
如馮一通聖學ノ勤タルコ
ト如此鶴林玉露天集一出

五十

七夕に尋テ人ヲ疑

未テ急速ニ人ヤ盗メリト疑フコトナカ
レ若耶疑ヲ以テ察スレバ親族奴婢賓客
知已隣人マテ無不疑コレ邪疑ノ弊ナリ
○列子曰人有亡鉄者意其鄰之子視其
歩竊鉄也顔色竊鉄也言語竊鉄也作動態
度無爲而不竊鉄也俄而相其谷而得其鉄
他日復見其鄰人之子動作態度無侶竊鉄
者コレ人ヲ疑トキハ人ノ行歩言語マテ
皆盗ト見テ疑睛タレバ少モ盗ニ似タル
トココナレトナリ七夕ビ疑テ疑トハ意
味アルノ
世話ナリ

七十

坊主ガ憎ケレバ袈裟マテ憎シ

世話ノ意

情偏僻終妄ニシテ至公無我ノ交ナク其
 人ノ憎愛ニヨリテ好惡ヲ物ニ及ス諭也
 坊主ハ有情ナリ袈裟ハ無情ナリ其坊主
 ヲ憎テ無情袈裟ニ及スコト愚夫愚婦ノ
 一切ニ顛倒セル情也○六韜云武王登夏
 臺以臨殷民周公且曰臣聞之愛其人及其
 屋上鳥憎其人者憎其除也
 コノ語言異ニノ旨同者也
 頭削ヨリ心ヲ削レ
 頭ヲ圓人ヲ衣ヲ墨ニ
 劣ルアリ六道講式云適削頂不削心深衣
 不深心可耻々々○慈鎮ノ歌ニ傾ユハニ捨
 ケル身ソト抑クハ安ニ
 ハガヨスミゾメノ袖
 俗通ニ載タリ謹按汝

九 鱒人頭モ信ニカラ

南 鱒陽有於田得磨者其主未往取也商車
 十餘乘經澤中行望見此磨著繩因持去念
 其不事持一鮑魚置其處有頃其主往不見
 所得磨及見鮑魚澤中非人道路怪其如是
 大以爲神轉相告語治病求福多有效驗因
 爲起祀舍衆巫數十惟懶鐘激方數百里皆
 來禱祀號鮑君神其後數年鮑魚主來歷祠
 下聚問其故曰此我魚也當有何神上堂取
 之遂從此壞傳曰日此魚之所聚斯有神言共獎
 成之耳右ノ意ハ鹽魚ヲ神ナリト信仰レ
 テ治病得福ナリ故ア爾力ナク鱒ト云字
 レバ徳アリトハ故アルカト鱒ト云字
 書ニ不考和名類聚抄云漢語秘
 云鱒以和之トアリ本文未詳
 三 形ハ生メトモ心ヲ生ス
 父母ノ生マレ也固

三 形ハ生メトモ心ヲ生ス

二其形容相倍タリトイヘドモ心親ト
 不^光同^{コト}今^古往^々皆^然タトヘバ親^ト
 大^聖人^ニ丹^朱商^均ノ愚^ナル子^{アリ}聖^子アリ^嗟呼^聖愚^ノ
 伯^鯨カ^頑愚^ニ舜^禹ノ^聖子^{アリ}嗟^呼聖^愚
 天^地懸^隔ナ^レト^モ其^子ノ^聖子^{アリ}嗟^呼聖^愚
 賢^不能^ニ及^ハ無^奈何^而已^ニ
 綿^ニ鍼^ヲ裏^ム小人^ノ交^リ外^ニハ^懇厚^ノ様^ノ
 ヲ^懷ト^云諺^也孟^郊ガ^詩ニ^曰結^口頭^交心^ヲ
 讓^生荆^棘綿^ニ針^ノ世^語コ^ノ詩^ニ結^口頭^交心^ヲ
 痛^ナキ^賤サ^グラ^レナ^ニ世^語ノ^意ハ^鶴ノ^事
 ツ^ヤウ^ニ言^ハナ^トイ^ス諺^ナリ^文選^日
 此^由不^納履^李下^不正^冠コ^レハ^氏自^ノ中^日
 此^ハ足^ヲ踏^イレ^ナ又^俯テ^履ヲ^イロ^フナ^ニ
 此^ヲ取^カト^人ヤ^疑ガ^ハン^李ノ^木ノ^下ニ

テ^手ヲ^舉テ^冠ヲ^直ス^ナ李^ヲト^ルヤ^ト
 人^ニ疑^ハレ^ン是^避嫌^疑イ^フコ^トナ^リ
 強^直ナル^者ハ^利發^ニ見^ユレ^ドモ^性ヲ^煎
 テ^大柔^弱ナル^者ハ^愚鈍^ニ見^ユレ^トモ^性ヲ^煎
 心^ヲ勞^スル^コト^ナケ^レバ^壽シ^トイ^フコ^ト
 叶^ナリ^唐子^西ガ^古硯^銘ニ^硯ト^筆墨^トヲ^論
 論^ジテ^鈍者^壽而^銳者^夭ト^イヘ^ルコ^ト
 ナ^ルベ^シ○^淮南^子曰^木強^則折^革固^則裂^齒
 齒^堅於^舌而^先之^敵口^義云^木強^則折^者如^柳
 如^柳則^難折^云又^古語^云長^直之^木有^折
 傷^弱之^柳無^損折[○]代^醉編^忍字^下剛^則
 必^折萬^事之^中忍^字爲^上又^三畧^柔者^德也^也
 剛^者賊^也サ^レバ^強木^ノム^スヲ^レト^柳ノ^枝
 枝^ノ折^カタ^キヲ^見テ^柔弱^無爲^退隱^伏

大和五

四

猿モ木カラ落

字彙曰猿善攀援樹枝猿ノ

人ノ平地ヲ起テ如不躓シカレトモ時ア
リテ木ヨリ落コトアリ。俗人智者モ時ア
リテ過ナキコトアタハス。一失アリトテ
不容之者寛仁大度ノ量ナキノミ。古語云
智者千慮必有一失トイヘリ。

五

岩ニ花トハ

有マシキ事ノ喻ナリ。代醉編

縣武口塞石上有花如堆心牡丹枝葉繚繞
鮮精於畫者莫能及或以物擊破其花拂拭
之其花復見

六

優曇華トハ

コレモ希ニシテ。過ガタキ夏

リ。今世話ニ常ニ喻ルコトナリ。優曇華ヲ
靈瑞華トモイフ。名義集云。優曇鉢羅此云
瑞應般。注。經云。閻浮提內有尊樹王。名優
曇鉢。有實无華。文句云。三千年一現。現金輪
王出。楞伽經疏云。優曇華。於世間中。无入
曾見者。依中國此樹直從條出。葉其大如椀
其爲香。義而无華。故過去未來无見者。十
へリ。光原氏ノ未童。スカタノ御時。瘡シ夕
マロテ。護身ノ夕メニ。横川ノ僧都ノ詩。才
ハシケル時ノ詠ニ。優曇華ノ花。三千得夕
ル。心地シテ。深山ザク
ラニ。目コソトマラチ

七

蛇ニ足ナシ。魚ニ耳ナシ

淮南子云。兔絲無

大和五

行魚無耳而聽。蟬無口而鳴。等皆一氣ヲ稟テ。自然ニ發動スルコトヲ述タリ。○代醉編三十九。朱聖云。畫蛇着足。無用處。為蛇畫足。見戰國策。與史記。按本草。燒蛇。陶隱居注曰。蛇皆有足。燒地令熱。以酒沃之。置中。足出。酉陽雜俎云。蛇以桑柴燒之。則見足。出。曲江老兵捕一蛇。燒之。四足垂出。如雞足狀。トイヘリ。○鶴林玉露云。宋壽皇問王季海曰。鶴字何以從龍。從耳對。日山海經云。龍聽以角。不以耳。イヘリ。

燈二丁子頭ト云モノアリ
本名ハ燈花ナルベシ。コノ丁子頭ヲ善瑞ナリ。外ヨリ錢財食物ナド得トテ。主コレヲ祝ナリ。事文類聚集云。陸賈云。日。驛得酒食。燈花得錢財。諺コレヨリ。本ヅケリ。夕

舞サカレバ。吉事アリトゾ。○歌ニ我背子カクヘキヨロナリ。サ、ガニノクモノフルマロ。カ子テレルレモ。ナド讀リ

又丁子頭夕テハ早。百草霜ニ火點スレバ。
又テシジカシラ

雨晴ト云
之。雙懸。奴婢喜而。宣。予曰。此雨止之祥也。今金星トハ。百草霜ニ就火ナルベシ。世俗謂コト故アリ。鶴林玉露。占雨コトヲ載タリ。性テ可見

神事ニ就テ別火シテ。同火ヲ忌ハ
伊井。冊。レタ。ミ。ヒ。カバ。伊井。諾。尊。オ。ヒ。ツ。キ。テ。ア。ヒ。タ。マ。フ。ニ。ヨ。モ。ツ。ヒ。ク。ハ。ウ。ト。タ。マ。

フ故ニ伊井諾キタナシト云歸リタマフ
是世ノ人ノ同火ヲ忌事ノ起ナリトフ
ノ物ヲ断トハ日本紀纂疏云水火是天生
之物無分染淨而神事忌火何也日火雖是
淨因物而穢故不
食炊爨之物而已

三 葬禮ノ時門ニ火ヲ燃ス 俗ニ是ヲ門火ト

周禮裘設門燎イヘリ俗ニイフトコロノ
門火ナリ顏氏家訓云喪出之日門前燃
火門火ハ本儒家ニ
出タリトイヘリ

三 就木ハ檜ヲ片テ其端分許ニ硫黄ヲ塗テ

久シ周ノ建德六年齊ノ后妃貧ナル者ハ
以發燭爲業史ニ載タリ又輟畊録云杭人削

松木爲小片其漸如紙錄硫黄塗木片頂分
許名曰發燭又曰燈兒蓋以發火及代燈燭
用也ト

三 貧ハ病ヨリ苦 古詩ニ富貴他人合貧賤親

貴他人重マコトニ貧ナレバ妻子ニサヘ
輕ラルル兄ヤ他人ヲヤコレ病ヨリ若キト
テ小人ノ憂ル所ナリ君子ナング貧ヲ若
クシテ明道曰富貴不嫌貧賤樂男子到此是
豪雄コレ君
子ノ域ナリ

四 富テハ驕貧ナレバ諂 論語曰子貢云貧而

子曰可也未若貧而樂富而好禮者也富貴
ナレバ奢貧賤ナレバ諂

ツテ守コト不能
ハ小人ノ衰ナリ

〔五〕貧ナルヲオチブレルト云

常ニ零落ト書ナリ。又ハ落魄

トモ。史記列傳云。家貧落魄。無以爲衣食。業註ニ應劭曰。落魄。志行衰惡之貌。評林ニ按。落魄者。貧無家業也。

〔六〕鷓鴣ハ死スレト穂ヲツマヌ

死スレトハ。餓テ死スレトハ。

トイフコトナリ。諺ノ意ハ。義ヲ守武士ハ。假令饑ニ及トモ。不義ノ知行俸禄ヲ不受也。李白詩云。風飢不啄粟。所食唯琅玕。爲能與群雞。料促爭一餐。世俗ノ言相侶。夕リツムトハ。食コトナリ。沈州。昏ニ推ツミタルト書リ。

〔七〕黒犬ニ嚙レテ灰ノ和滓ニ恹ル

世ノ前ニ懲

コトアレバ。其後ニ恐ルハ。前ニ懲。バ。唐傳奕曰。懲。佛。養者。吹。冷。齋。傷。弓。之。鳥。驚。語。同。意。也。

〔八〕琥珀塵ヲ吸穢ヲ不吸。磁石針ヲ吸曲ヲ不

吸。三國志云。琥珀。不取。玉。石。タ。ニ。モ。穢。タル。ヤ。曲。ノ。意。ハ。非。情。ノ。玉。石。タ。ニ。モ。穢。タル。ヤ。曲。タル。ヲ。バ。不。受。不。取。死。ヤ。天。地。ノ。靈。タル。ヤ。曲。ト。シ。テ。道。ニ。非。ス。義。ニ。非。サ。ル。物。ヲ。取。ベ。キ。穢。ナ。シ。ト。ナ。リ。〇。磁。石。ハ。本。草。曰。此。之。陽。産。鐵。者。陰。必。有。磁。石。蓋。二。物。同。氣。也。〇。琥。珀。ハ。陶。隱。居。云。松。脂。入。地。千。年。所。化。中。有。蜂。形。色。如。生。者。能。拾。之。

中。有。蜂。形。色。如。生。者。能。拾。之。

九

藜食蟲トハ

醜ヲ醜シトイフ。白氏長慶集。自詠詩云。一

トイフ。喻ナリ。○白氏長慶集。自詠詩云。一
家五十口。一郡十萬戶。出為差科頭。入為衣
食主。水旱合心憂。飢寒須手撫。何異食藜蟲。
不知若。是若。又孔叢子。有藜蟲賦。言是蟲。請
長斯。藜不以為辛。諺ノ
本ツクトコロナリ

平

鰻鱺魚モ一期鰻鱺魚モ一期ナリ。蓋鰻鱺ハ其

鰻鱺長大ニシテ海中ニ自在ナリ。鰻鱺ハ其
微小ニシテ水底ニ潛行ス。博識廣智ノ士
ヲ鰻鱺トシテ不學短才ノ者ヲ鰻鱺ニ喩コ
ノ。二。天地懸隔ナレドモ。其一生ヲ終コ
ハ。君子小人差別ナレトモ。小人ノ流言
ナリ。杜詩ニ。孔孟盜賊共纏埃。トイヘリ。今

ノ俗語
相嗜狹

望

問ハ一期ノ耻問サルハ一期ノ恥

問ハコレ禮也。論語ハ。仲弓問曰。大廟每
事問注。尹氏云。禮者敬而已矣。雖知亦問。謹
之至也。大聖スラ。大廟ニ入テ。八事コトニ
問タマフ。學者何ゾ。人ニ類テ。審問明辨サ
ラシヤ。只是小人ハ一期ノ耻問。更ヲ
恥テ。一期ノ耻ヲ擲モナリ

平

人ハ名ヲ惜虎ハ毛ヲ惜ム

レバ君子世ヲ没スルマデ。名ノ稱セラレ
ガ。ルヲ疾トナリ。和漢ノ志士。主君ノ恩。賜
友ノ義。ノタメニ命ヲ惜ム。亡ル者。傳籍ニ載
コ。口ナリ。コレ名ヲ惜ム。亡ル者。傳籍ニ載
ト

六和五

四

時二遇八鼠七虎トナル

漢書東越傳云

三

則為鼠コレノ概トコトナリコノ意ヲ

二

ムカニニテ今ハ子ス

一

網無フテ淵ナ望ソ

ヘドモ所得魚ノ理ナキハ淵ニ望トイ
無益ノ言ハ世ノ人妄ニ求テ心カラテ
シ胸中ヲ煎ドモ卒ニ一毫ノ得コトナキ
者ハ此類ナリ未ラ論ゼンヨリハ本ヲナ
メンニハ不如ナリ抱子日夫不學而未
知辨願魚而無網焉心雖勤而無獲矣

五

今參二十日

俗ニ婚テ奉公ノ者ヲ為新參

書云臨淵而羨魚不如退而
結網コレ等語ノ本據ナリ
テ主人ニ事ニ能忠ラツクスコト
識ナリ其久キニ及テハ必ス懈リナキ
ト不能ナリ鄧析子云患ハ生於官成蓋語
異ニシテ旨同モノナラシムル世ノ人慎
給情終者ハ常ナリ故ニ詩曰靡不有初
克有終マコトニ精察深思シテ自戒ムベ
キモノナリ

四

愛子ニ旅ヲサセヨ

大凡凡人ノ子タル都家

母ノ愛育ヲ憐テ必ス怠惰放縱ニシテ
敬揖讓ヲ不知若一旦出テ

八難難苦痛シテ性ヲ忍ム人
 ノタメニ悔ヲウケ辱シム
 起其心胸ヲ苦ム是時ニ常
 シ曲心自ラ直ニナリ人ノ善
 ガ身ヲ看ル誠ニ旅ニ在ノ益
 子日在旅之時謙辭柔弱乃可
 自高失其所宜安矣意夫愛子
 愁ニ處シメント欲スルコト尤
 燈滅シトテ光ヲ増蓋人教ヲ
 ナリ佛家ノ盛者必衰道家人
 イフノ談ナリ列子云燈將滅
 者必ズ大明諺コノ本ケリ
 水ニ畫跡カタモナク又文章ヲ
 四

燈滅

增

水ニ畫

刃行コトナキハ水ニ畫ナリ語ハ觀經序
 分義ニ繼發清心猶如畫水コレハ
 善心起レドモアトヨリ失ルコト
 エカクト夕トエタリ山谷云鏤水
 工巧註云鏤鉄論云内無其質而
 若畫脂鏤水賞日損功コノ口ハ
 ノ徒三墳五典ノ書經律論釋ヲ
 ノ玩物トシテ徒ニ精神ヲ費シ
 テ已ラ修ノ理ニ暗シコレ等ハ
 木ニ鏤水ニ畫ノ學問ナリトグ
 一葉落テ天下ノ秋事ハ其勢ノ
 不也臣弒其君子弒其父コレ
 ノ故ニアラス其所由來者漸ナ
 早辨ユベキモ大ナルヲ諫ノ意
 ヲ三テ其終ノ大ナルヲ諫ノ意
 九

一葉落

淮南子云以一小暖大見一葉之寒コレ世語ノ
暮膳瓶中之米而知天下之寒コレ世語ノ
口吹

五十

一帛半錢トハ佛家ニ布施物ノ火ヲ謂ナ
ハ紙ハ白色清淨ノ或抄ニ紙半錢ノ表事
祖ノ云圓者錢也即無闕為義也圓頓ノ法
二萬德ヲ具定スル義ヲ顯スナリト云リ
實ニ白紙一枚半文錢ハ必布施ナレトモ
功徳廣大ナリト施ナリ○大藏一覽ニ菩薩
本行經ニ曰所施雖少歡喜心與清淨心與
恭敬心與不望報與中器所施雖少獲報弘
大猶如良田所種雖少收實甚多○貧女力
一燈長者ノ五燈所備世主受決經ノ説
ナリトゾコノ語ハ俗常ニ謂モナリ

至

山礪河帶トハ

誓文ノ語ナリ。史記高祖
臣年表曰使長河如帶泰山

三

人ノ愚ニ惑ヲ株ヲ守ト云ハ

韓非子曰宋

田中有株兔走觸株折頸而死因釋其耒而
守株冀復得兔兔不可復得而身為宋國笑
トイ

三

舷ヲ刻トハ

呂氏春秋曰楚人鋸自解中
木象契其船曰

也。舟已行而劍不行。不亦惑乎。今人無限之
語云。今乃集前人已効之方。應今人無限之
病。何異刻舟求劍。按圖索驥矣。

醉

物ノ變ヲ不知コトチニ膠ト去
如史記蕭相

名使括若膠柱而鼓瑟耳。括徒
能黃其父書傳不知劍變也。

早

早キコトヲ目度鳥ト云
本無常ノ物ナリ

海内忽如鳥過目。句アリ。萬葉第五。挽歌人
序云。二鼠競走而度目之鳥且飛トイヘリ。
又俊賴ノ家集ニタマサカニクルトハス
レト目ヲワタル鳥ノハヤクモカヘリ又
ルカナコノ意ハ人ノ来リテ早クカヘル
心ニ讀リ。万葉ノ序ニイフ。二鼠七無常ノ

夕

夕トエナリ命ヲ草ノ根ニ
諭。日月ヲ黑白

ノ歌ニ我タノム草ノ根ヲハム鼠トイ
モヘバ解ノサラメシキカナ。土御門院

御歌霜カレノ草葉ニサハダ。日ノ麗キ人
フハケフニナルゾホトナキ。高光ノ歌

ニ。夕ノムヨリ。解ノ子スミノサハダカナ。
草葉ニカ、ルツユノイノチヲ。右日月ノ

羊

羊歩日譬如旃陀羅驅羊就屠所。步々進死

地人命復過是屠所トイフテ。畜ヲ屠殺ト
コロヘ。羊ヲ引テ行ニ。一歩ニ歩ト進ホド
ニ。死スルコトノチカヅクゴトク。世ノ無
常。人ノ命モ屠所ニヲカ

トナリ。○後拾遺集ニ。夕午ノ財コソ。吹ツナレ。羊ノアユミ。チカケリ。

坪

際駒 是モ無常ノ喻ナリ。譬ハ日月ノ早ク透間ヨリ見ルガゴトク。程ナキ心ナリ。謝ニ。際駒難追作レルモ。コノ心ナリ。謝百首ニ。際スグルコトヨリモトキカゲ口フノ世ヲ玉キハル五ノ春ニ。アヒニケルカナ。○史記列傳魏豹曰。人生一世。如白駒過隙。耳。索隱。莊子云。無異騏驎之馳。際際則謂馬也。小顏云。白駒謂日影也。際壁際也。以言速疾。若日影過壁際也。唐詩鼓吹註云。雞屬火。應陽而鳴。故五更陽動則鳴。又玄中記。

卒

鷄時ヲ鳴事

唐詩鼓吹註云。雞屬火。應陽而鳴。故五更陽動則鳴。又玄中記。

云。東麓有桃都山上。有大樹。名曰桃都。枝相去三千里。上有天雞。日初出。照此樹。雞即天下。鷄皆隨之鳴。コノコトハ。口ハ。日出テ後。雞ナク。トアレバ。常ノ様トハ。聲リ。日本紀云。日神開磐戸。幽居之時。思兼神聚。常世之長。鷄鳥使長鳴云云。コノコトハ。口ハ。雞鳴テ後。日神ハ出タマフト見ヘタリ。是ハ常ノヤツニモカナヘリトゾ。枕詞燭明。以説文。雞知時。畜除云。雞。鷄也。能考時也。

九

鴈ノ使并風ノ使

遺ハス。匈奴武ヲ捕テカヘサズ。其肩駝。帝位ニ即テ數年アリテ。匈奴儼ト親ス。時ニ漢ノ帝。燕武ヲモトム。匈奴儼ト親ス。ハ。二死タリトイフ。鳥後漢ノ使。マタ匈奴。

奴ニ至リテイフハ天子上林ノ中ニ射馬
ヲ得タリ武獵中ニ書ヲ書スハ天子
書ナリ武獵中ニ書ヲ書スハ天子
ラド口キテ漢ノ使ニ謝レテ武獵
ト云雁書雁ノツカヒノ事コレ
狀ラ雁書雁ノツカヒノ事コレ
トブヤカリノツカヒイフコレ
ミヤコニコトツテヤラシ又内典ニハ過
去膨蓋王ノ太子ニ善友太子トイフ人
リ射蓋王ノ太子ニ善友太子トイフ人
ニ流行スルニ善友ノ母書ヲ撰セラレ諸國
ル雁ノ首ニツケタリケレバ太子ノ許ヘ
ユキツキテトバケルトグ報恩經賢恩
經ノ説ナリトイヘリ又風ノ使トハ河
地圖帝通記トイフ書ニ風天地之使也
地之鼓也トアリトゾノ古今集ニムカ

今和五

卒大ヲ以テ文ノ使トスルコトハ

畜ヲ風ノ使ニタグヘテブウク
ヒスサツフシルベニハヤル
ノ驢犬ヲ畜名テ黃耳トイフ甚コシ
ス陸機浴ニ在テ久ク故郷ノ書通ナレ
ルトキ犬ニ謂テ曰ク汝能書ヲ齎テ吾
鄉ニ行テ消息ヲ取ンヤ否犬尾ヲ搖シ
テ作ル機スナハチ文ヲ書テ作ノ簡ニ
テ犬ノ頸ニ係ル路ヲ尋テ離ニ走遂ニ
ガ家ニイタリテ返報ヲ得テ又浴ニ還
使トス
ルナリ

卒馬二道マカスル事ハ

非子云管仲從桓
伐孤竹春往冬返

迷或テ。失道管仲曰。老馬之智可馴也。仍放
老馬而隨之。遂得道。ト云。譚ニハ。夕サレバ。
道モミヘ子ド。フルサトハ。モトキシコマ。
ニ。カカセテグユク。トヨメリ又朗詠ニ。寧
中放馬朝。鬣跡ト作。ル詩モ右ノ意ナリ。

三 猫ノ鼠ヲ捕事

使此二婢。骨醉蕭妃。臨死曰。願武為鼠。吾為
猫。生々世々。扼其喉。亦可悲矣。今俗間相傳
謂猫為天子妃者。蓋本此也。予自讀唐史。此
段每見。猫得鼠。未嘗不為之稱快。人心之公
憤。有千萬年。而不可磨滅者。嘗有詩云。陋室
偏遭黜鼠欺。狸奴雖小策。黠奇扼喉莫認無。
遺力應記當年骨。醉時和俗。マ夕。猫ハ女ノ
化スルモ。ノナリトイフ。由アル哉。○癩邪

代醉云。猫目睛且春圓。及午堅致。如綠鼠。端
常令。惟夏至。日燠俗云。猫洗面。過耳。則客至。
西陽雜俎

三 獅子身中ノ虫トハ

我ウチヨリ。幾ノ出來
獸ノ玉ニテ。皆ヲチ恐ルユヘニ。雌ヨリソ
コナフ都ナケレハ。巳ガ身ヨリ虫生ジテ。
獅子ヲ食殺トナリ。佛敎
ニハ。蓮花面經ノ説トソ

四 碁ヲ圍コトハ兵法ノ如ト謂

史記註云。極
有。圍碁之戲。或言是兵法之類也。及為之上
者。遠碁。疏張。置以會。讎因而成。多。得道之勝
中者。則務相絕。遮要。以爭。便求利。故勝負。負
疑。須計數而定。下者。則守是。偶趨。作。以自

生於小地然亦必不如家
 取吳楚并齊魯及燕趙者此廣道地之謂也
 計云取吳楚并韓魏塞成臯擄敖倉此趨中
 要爭利者也下計云取吳下蔡擄長沙以驢
 趨此守邊隅趨作
 罰者也トイヘリ

五卒

弓ヲ袋ニ納トハ
 治レル代ヲ謂也詩周
 載戰于戈載橐弓矢如
 今聖代太平無事時
 于戈弓矢勢ナク民ハ
 安寧ナリ如拙此安隱
 ハ世ニ生テ海安寧ナリ
 山林寂實之境
 為釣耕之逸民說テ毛尚
 可說者乎

漢語大和故事卷之五終

洛陽二条通堺町西、入丁

上村平允衛門

元祿四未歲孟夏吉辰

江府日本橋青物丁

万屋清兵衛

同平野屋

長右衛門

根筋大坂心齋橋筋上人町

鴈金屋庄兵衛板

河

左

高橋成

高

二十